

「繋がりあっている世界　く良きことを願うく」

加茂法話会　令和三年三月二十四日

一、「帝釈(たいしゃく)の網」　華嚴経の中にある縁起思想を巧みに表現した比喻
帝釈とは「帝釈天」のこと。

もともとは「インドラ」というヒンドウ教の神。

仏教に取り入れられて、仏法および仏教徒の守り神になった。

その帝釈天が地球上に大きな網をかけた。

地球をすっぽり覆うほどの巨大な網が下りてきたわけで、当然わたしたちの上に網はかかる。

一つ一つの網目が、わたしたち一人一人。

網目にはシャンドリアのミラーボールのようにキラキラ光る「宝珠」がぶら下がっていて、人間はすべて網目の一つでミラーボールのような存在。

この比喻には、きわめて重要な二つのメッセージ

①「すべての存在は関わり合っている」ということ。

② 個と全体の関係は、「関わり合いの総体」が全体であると考ええる。

それぞれの個が単に集合しただけでは全体にならない。個々の存在が互いに関わり合って全体になっている。網目の一つが欠けたら、それは網にはならない。

二、三条市が本社の冷暖房機メーカー「コロナ」、その意味は、太陽の輝く輪

新型コロナウイルスとたまたま同じ名称というだけで、社員と家族が悩んだことがあった。

社長名で昨年6月、日報の1ページを使って、コロナ社の従業員家族に語りかけるような広告を出した。

もし、かぞくが、コロナではたらいっているということ、

キミにつらいことがあったり、なにかいやなおもいをしていたりしたら、

ほんとうにごめんなさい。

かぞくも、きみも、なんにもわるくないから。

わたしたちは、コロナというなまえに、じぶんたちのしごと、ほこりをもっています。

キミのじまんのかぞくは、コロナのしゃいんです。

県内外から多くの応援の葉書や手紙が寄せられた中の一つ。

「コロナという字を組み立てて君のやさしさ思い出す日々」

という詩と「君」の文字が添えられて。

三、社会心理学者の碓井真史先生より

祈りの大切さ

「祈られている人の病気の治りは早い」科学的事実

どうしようもない時、祈り心を持つことは、苦しみを乗り越える力になる。

祈られている子は強い。

不幸にならない心の余裕が出てくるのではないか。

四、今の自分にできることは何か。

